

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

# 水晶グラスに世界各地の風土映す

託問 康二 山梨／貴石彫刻家



スーパーバイザー  
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



1月24日、プレゼンテーションにて

本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、生駒芳子氏（ファッション・ジャーナリスト）、アート・プロデューサー）、下川一哉氏（意匠研究所）らをサポートメンバーに発足。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への指定やロックフェラー家主催のチャリティイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せている。

3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大

## 「匠」のモノづくりを応援

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催：LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりの挑戦に「匠」を応援する。



プレゼンテーションの様子

のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター（コラボレーター）が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏（建築家、廣川玉枝氏（SOMARITA クリエイティブディレクター）、森永邦彦氏（ANREALAGE 代表取締役社長・デザイナー）、辰野しずか氏（クリエイティブディレクター）プロダクトデザイナー）が登場し、想いを語った。2019年秋頃には、完成したコラボ作品、過去のプロジェクトから生まれた匠た



商談の様子

ちの作品を披露するイベントを京都の地で開催することを合わせて発表。プロジェクトも一歩一歩進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUS が掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。山梨県選出の匠、貴石彫刻家の託問康二さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

## ガラスとは違う 天然石の見せ方

プロダクトは、世界各地で産出された水晶を加工したストリートグラス。北アメリカ、南アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、アジアに、甲府を加えた6地域の水晶を使い、含有物や色合い、透明感などが最も美しく見える削り方を考え抜き、一つ一つを完成させた。

コンセプトは、水晶が出来上がるまでの長い年月、産出された地域の風土や特徴などに思いを馳せることができるグラス。プロダクト名は、水晶を通して見える風景をイメージして考えた造語の「stonescape glass（ストーンスケープグラス）」とした。

水晶は、成長する過程でほかの鉱物を取り込む特徴がある。色合いがさまざまであったり、内部に模様のように鉱物が入ったりしているのはそのためだ。ガラスの制作は単に透明度の高い部分を使用するわけではない。色味や含ま



プロダクトの作業過程

れた鉱物が効果的に目に留まるように加工していく。「なぜ水晶で作るのかと考えたときに、ガラスとは明らかに違う表現をし、天然石ならではの見せ方が必要だと感じました。透明度の高いきれいな水晶を使うと、ガラスとの差別化ができません」今回制作したプロダクトのイメージは以前から頭の中に取り、プロジェクトへの参加

## 地場産業の宝飾で地域の発展めざす

託問さんは、山梨県の地場産業であるジュエリー産業の一つ、貴石彫刻により、さまざまな宝飾品を生み出している。甲府市内で貴石彫刻の会社を営む父の影響で幼いころから興味を持ち、高校卒業後に市内のジュエリー関連金属加工の会社に就職。4年ほど修業を積み、父の会社に入った。

ジュエリー産業は、石の加工と金属の加工の二つに分けられる。山梨では、山々が連なる独自の地形から良質な水晶が発見されたことによって水晶の加工が盛んになり、ジュエリー産業が発展した。石の加工の中でも貴石彫刻は、水晶など貴石の塊から製品を削り



エリア・コンサルティングにて



託問 康二  
山梨／貴石彫刻家

甲州水晶貴石細工の伝統工芸士。山梨県認定ジュエリーマスター。1973年生まれ。高校を卒業後、金工加工を学ぶ。その後家業である貴石彫刻の道へ。石の特徴を活かしながら地金加工と融合させた作品を多く発表。また、古くおこなわれていた技法をとり入れることにも積極的に挑戦し、彫刻作品からジュエリーまで幅広い制作活動をおこなっている。

LEXUS  
NEW  
TAKUMI  
PROJECT



託問さんの作業風景

の地場産業を後世につなげ、発展させたいという思いが強くなってきたという。「貴石彫刻は全国的にも珍しい産業

です。この産業が後世に続いていくためにも、国内外にどんどん出て行って活躍したい」と意気込んでいる。

をきっかけに具現化させた。エリア・コンサルティングでは、生駒氏から「6大陸それぞれを産地とした水晶のグラスを一つのパッケージにするような見せ方や、ネーミングも重要」とアドバイスされた。託問さんは「見せ方、受け手にどう伝えるかについては、これまで以上に考えるようになりました」と振り返る。

プロジェクトや完成させたプロダクトには、一定の手応えを感じている。「プレゼンテーション・商談会で、貴石彫刻という仕事、産業があるということを知ってもらい、プロダクトも評価してもらえたと感じています。今後この機会が、何か新しいことが動き出すきっかけになってくれるとうれしいですね」と話している。



完成プロダクト「stonescape glass」